

令和6年 12月 27日

車内放置されたモバイルバッテリーから出火した事例

1 火災概要

エンジンが停止した状態で駐車されていた無人の乗用車から出火し、運転席側ダッシュボード付近を焼損した。車内運転席側から白い煙が出ているのを発見した付近民が119番通報を行い、到着した消防隊が消火した。

2 原因概要

ソーラーパネル式モバイルバッテリーを太陽光で充電したまま、乗用車のダッシュボード上に置き忘れ、エンジン停止、駐車後約2時間が経過し、車内温度の上昇により、熱の影響からモバイルバッテリーに内蔵されているリチウムイオン電池の構成部品が変形しショートが発生して電解液に着火、モバイルバッテリーから炎が上がり内装部品に着火した。



▲車両の焼損状況
前方から撮影した前景



▲運転席付近の焼損状況



▲ダッシュボード付近の焼損状況



▲モバイルバッテリーの焼損状況

3 モバイルバッテリーの車内放置の危険性

モバイルバッテリー等のリチウムイオン電池を使用している製品の取扱説明書には、適切な使用温度の範囲、及び高温環境下で使用しない旨の注意書き、発火の危険性についての警告が記載されており、多くの製品では、最高許容周囲温度は45℃程度とされています。

高温環境下での保管や使用、または、そのような環境下に置かれたモバイルバッテリーを繰り返し使用した場合は、熱の影響からバッテリー内部で異常な反応が起きて破裂、発火するおそれがあります。

また、今回の火災事例のようにソーラーパネル式の製品は、ダッシュボード上への置き忘れが起こりやすく、充電中は通常時でも熱が発生することから短時間で発火する恐れがあり、大変危険です。

【外部リンク nite ホームページ】

[「高温化に放置して発火」](#)



炎天下の車内は危険！ダッシュボード上は夏場以外でも・・・

今回の火災が発生したのは4月中旬、天候は晴れ、外気温は17℃でした。消防署員が外気温19度の晴天時に測定したところ、2時間で乗用車の車内温度は51℃、ダッシュボード上では78.5℃に達し、夏場以外でもダッシュボード上は高温環境下となりやすいことが確認できました。

4 リチウムイオン電池の火災について

リチウムイオン電池は、モバイルバッテリーの他、スマートフォンや携帯ゲーム機などの充電式の製品に多く使用されており、小型、軽量でエネルギー効率が高いことから現代社会では必要不可欠なものとなっています。その反面、異常が発生した場合は激しい反応が生じ、リチウムイオン電池の発火事故は、全国的に近年頻繁に発生しています。

出火原因は、落下などの外部衝撃、電池の劣化、充電方法の誤りなどが多いですが、今回の火災事例では高温になる車内に置くだけで発火する危険性があるため、注意が必要です。

担当：予防課

連絡先：0226-22-6693